

# 岡山県感染症週報 2016年 第21週 (5月23日～5月29日)

## ◆2016年 第21週 (5/23～5/29) の感染症発生動向 (届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

第19週	2類感染症	結核	2名 (40代 男 1名、50代 女 1名)
	5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1名 (70代 女)
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1名 (40代 男)
第20週	2類感染症	結核	1名 (30代 女)
	5類感染症	後天性免疫不全症候群	1名 (50代 男)
第21週	2類感染症	結核	1名 (70代 男)
	4類感染症	レジオネラ症	1名 (70代 男)
	5類感染症	梅毒	1名 (30代 男)

### ■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

○感染性胃腸炎は、県全体で 339 名 (定点あたり 6.94 → 6.28 人) の報告があり、前週よりわずかに減少しました。

○咽頭結膜熱は、県全体で 34 名 (定点あたり 0.48 → 0.63 人) の報告があり、前週より増加しました。

### 【第22週 速報】

○高梁市の中学校 1 校で、インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 1 施設でありました。

(5月30日)

【お知らせ】 「2015/2016年シーズン 岡山県インフルエンザ発生状況のまとめ」を掲載しました。

- 1. 感染性胃腸炎**は、県全体で 339 名 (定点あたり 6.94 → 6.28 人) の報告があり、前週よりわずかに減少しました。地域別では、真庭地域 (8.50 人)、倉敷市 (8.09 人)、美作地域 (8.00 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など詳しくは、「[感染性胃腸炎週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2015/2016年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。
- 2. 咽頭結膜熱**は、県全体で 34 名 (定点あたり 0.48 → 0.63 人) の報告があり、前週より増加しました。過去 10 年間の同時期と比べて多くなっています。地域別では、備中地域 (1.29 人)、岡山市 (1.21 人)、美作地域 (0.83 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。咽頭結膜熱は、主にアデノウイルスに感染することによる小児の急性感染症です。症状は、発熱、のどの痛み、結膜充血、眼痛、目やになどです。予防方法としては、感染者との接触を避けること、流行時に手洗いやうがいを実施することなどです。

### 流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↓	★	RSウイルス感染症	↘	★
咽頭結膜熱	↗	★★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	★
感染性胃腸炎	↘	★	水痘	→	★
手足口病	↑	★	伝染性紅斑	↘	★★★
突発性発疹	→	★	百日咳	↑	★
ヘルパンギーナ	↗	★	流行性耳下腺炎	↘	★★★
急性出血性結膜炎	→		流行性角結膜炎	↗	★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	→	
マイコプラズマ肺炎	→	★	クラミジア肺炎	→	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	→		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年 第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。		

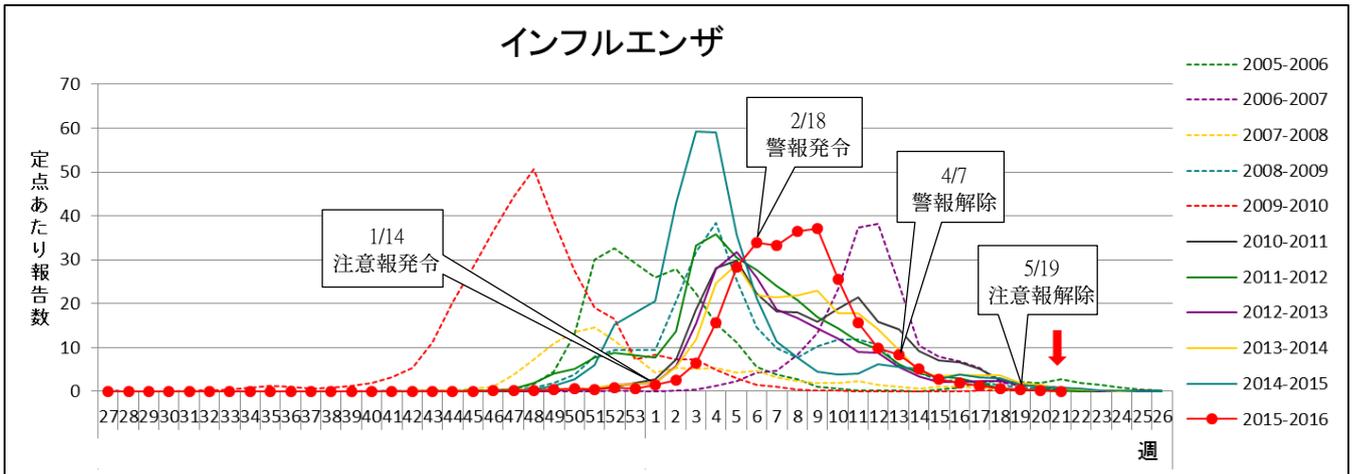
【記号の説明】 前週からの推移：  
 : 2倍以上の減少  
 : 1.1～2倍未満の増加  
 : 1.1～2倍未満の減少  
 : 2倍以上の増加  
 : 1.1未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

空白：発生なし ★：僅か ★★★：少し ★★★★★：やや多い ★★★★★★：多い ★★★★★★★★：非常に多い

# 岡山県 インフルエンザ発生状況

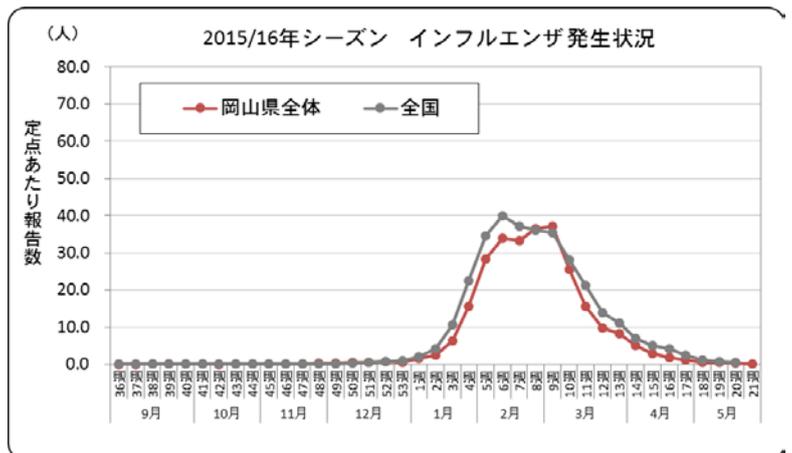
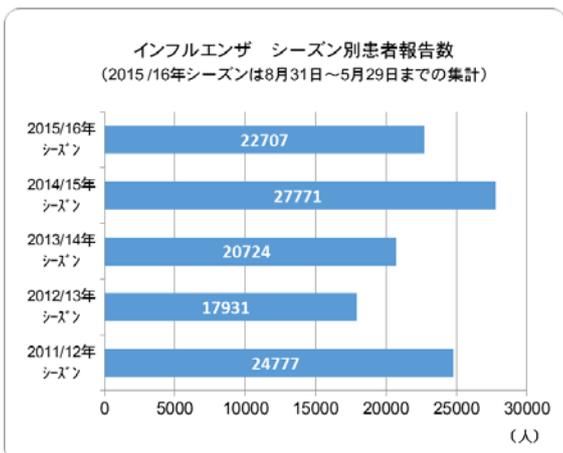
## ( 2015/2016 年シーズン流行のまとめ )



2015/2016年シーズン（2015/8/31～2016/9/4）のうち、2016年5月29日までの岡山県におけるインフルエンザの発生動向をまとめました（県内84定点医療機関報告）。

今シーズン、岡山県の患者報告数は、22,707人で、2015年第38週（9/14～9/20）に初めての患者が報告されました。2016年第1週（1/4～1/10）には定点あたり1.54人となり、注意報発令基準の定点あたり1.00人を上まわったことから、岡山県は1月14日「インフルエンザ注意報」を発令しました。過去10年間で2番目に遅い流行シーズン入りとなり、その後、急速に流行が拡大しました。第6週（2/8～2/14）には定点あたり33.88人となり、警報発令基準の30.00人を上まわったため、2月18日「インフルエンザ警報」を発令し、さらなる注意喚起をはかりました。第9週（2/29～3/6）には今シーズンのピーク（37.19人）を迎え、第10週以降、患者数は減少に転じました。その後、第12・13週と2週連続で定点あたり10.00人を下まわったため、警報から注意報に切り替えました。5月上旬の第18週（5/2～5/8）には0.55人、第19週（5/9～5/15）には0.46人と、2週連続して定点あたり1.00人を下まわりました。そのため、岡山県に発令されていた「インフルエンザ注意報」は5月19日をもって解除になり、今シーズンの県内のインフルエンザの流行は、ほぼ終息したと考えられます。

全国でも、2016年第1週（1/4～1/10）に定点あたり2.02人となり、2006/2007年シーズンにつづいて、遅い流行シーズン入りとなりました。その後、第6週（2/8～2/14）に定点あたり39.97人となり、流行のピークを迎えました。以降、岡山県とほぼ同様に推移し、第19週（5/9～5/15）には定点あたり0.68人となり、鹿児島県の一部の地域を除き、注意報レベル（全国の発令基準：10.00人）を下まわりました。



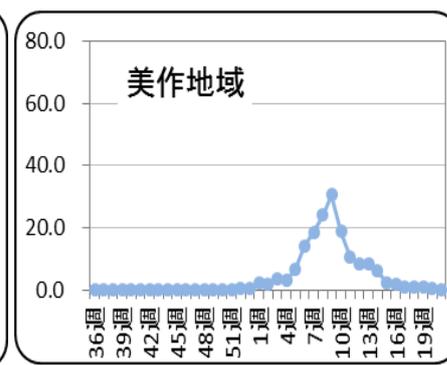
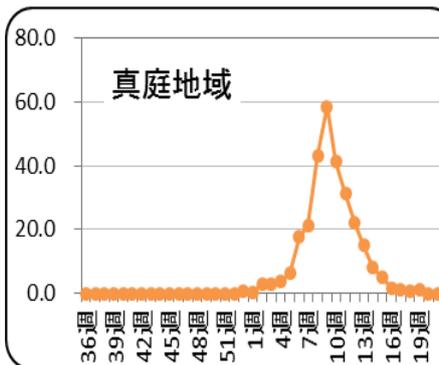
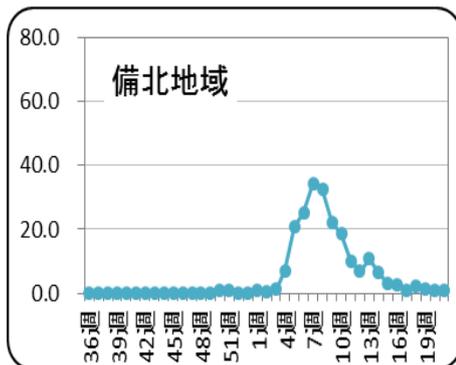
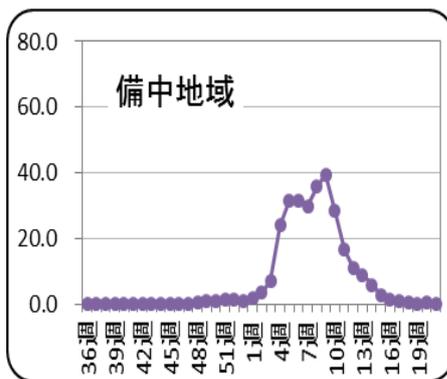
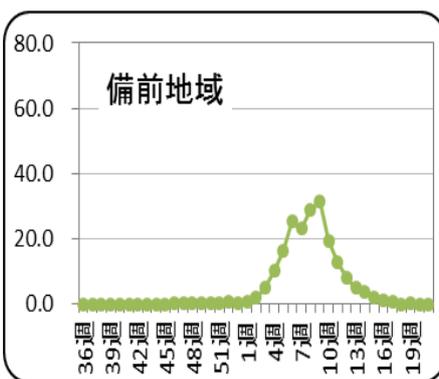
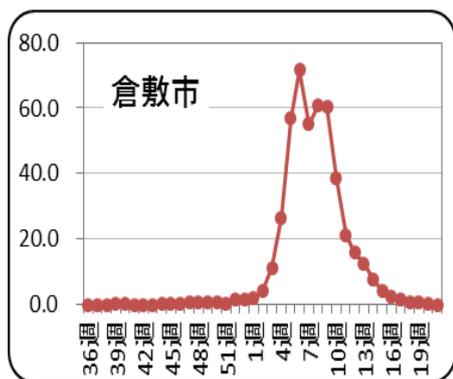
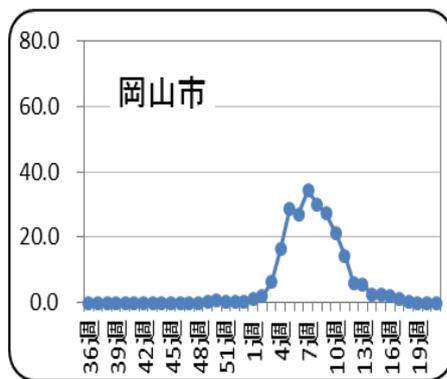
## 1. 地域別発生状況

地域別でみると、2015年 第38週(9/14~9/20)頃から、倉敷市・備中地域で患者が報告され始め、岡山市、倉敷市、備前地域、備中地域を中心に流行が拡大し、2016年第3週(1/18~1/24)には備北地域(0.33 → 1.17人)でも流行開始の指標を上まわり、県内全域が流行期に入りました。その後、患者は増加をつづけ、各地域のピーク時の定点あたり報告数は、岡山市 34.23人(第7週)、倉敷市 71.69人(第6週)、備前地域 31.33人(第9週)、備中地域 39.42人(第9週)、備北地域 34.33人(第7週)、真庭地域 58.67人(第9週)、美作地域 30.70人(第9週)でした。その後、患者数は減少に転じ、第21週(5/23~5/29)には、全ての地域で定点あたり1.00人を下まわり、今シーズンの流行はほぼ終息したと考えられます。

※感染症発生動向調査は、岡山県を7つのブロックに分けて情報収集しています。

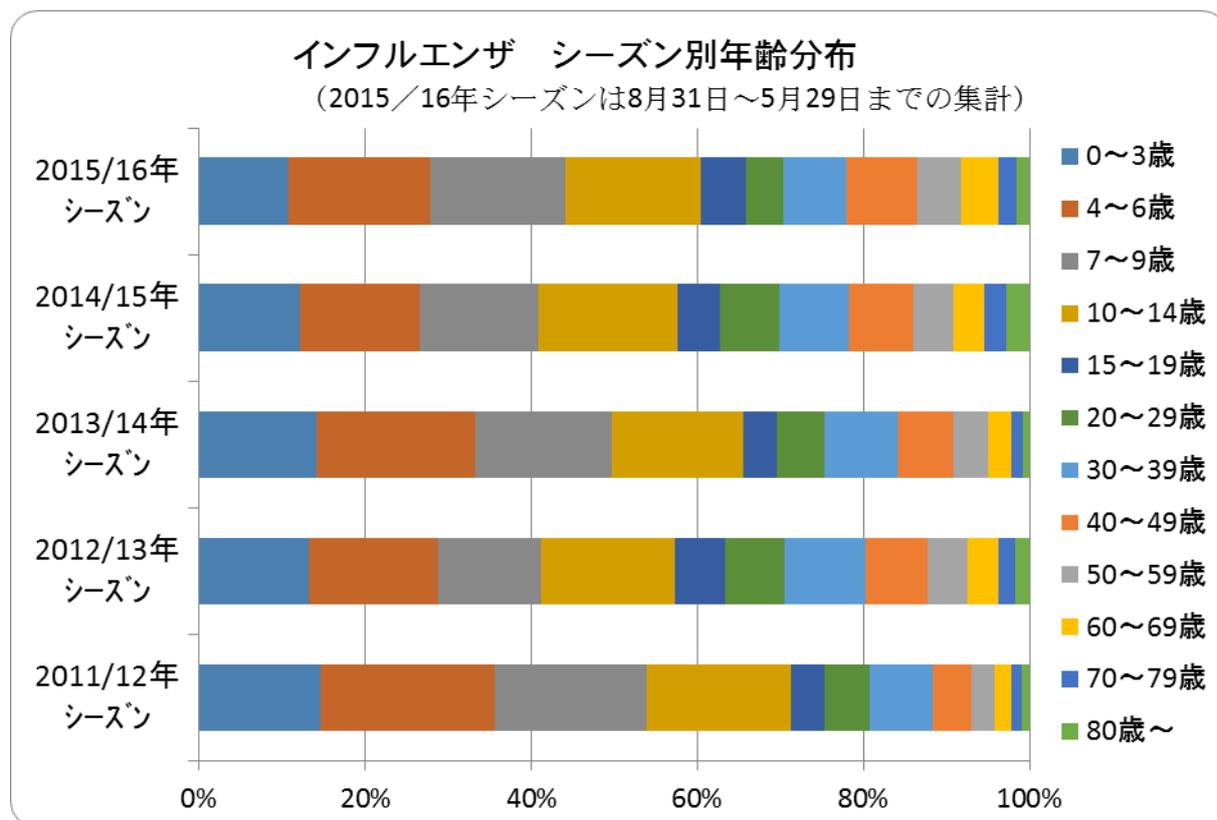


- ・岡山市
- ・倉敷市
- ・備前地域 (オレンジ)
- ・備中地域 (黄)
- ・備北地域 (緑)
- ・真庭地域 (ピンク)
- ・美作地域 (青)



## 2. 年齢別発生状況

年齢別割合は、4～6歳が最も高く（17.1%）、つづいて10～14歳（16.4%）、7～9歳（16.2%）の順でした。昨シーズンと比較して、4～9歳の年齢層での割合が増加し、15歳未満が60%を超える割合を占めていました。



※インフルエンザは、9月から翌年8月までを1シーズンとして集計しています。

## 3. インフルエンザウイルス検出状況

今シーズン（2015/8/31～2016/9/4）のうち、2016年5月29日までに岡山県環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは63株で、B型32株〔山形系統21株・ビクトリア系統11株〕（50%）、AH3型20株（32%）、AH1pdm09型11株（18%）でした。昨シーズンは、AH3型が最も多く検出されましたが、今シーズンは、B型（山形系統・ビクトリア系統）が主流で、複数の型のインフルエンザウイルスが同時期に検出されました。

月別検出状況は、11月中旬（第47週）からAH3型が検出され始め、12月にはAH3型、B型（山形系統）、AH1pdm09型の順で検出割合が高くなりました。その後、B型（山形系統・ビクトリア系統）の検出が増加し、3月上旬（第10週）以降にはAH3型は検出されず、B型（山形系統・ビクトリア系統）とAH1pdm09型が主流となりました。

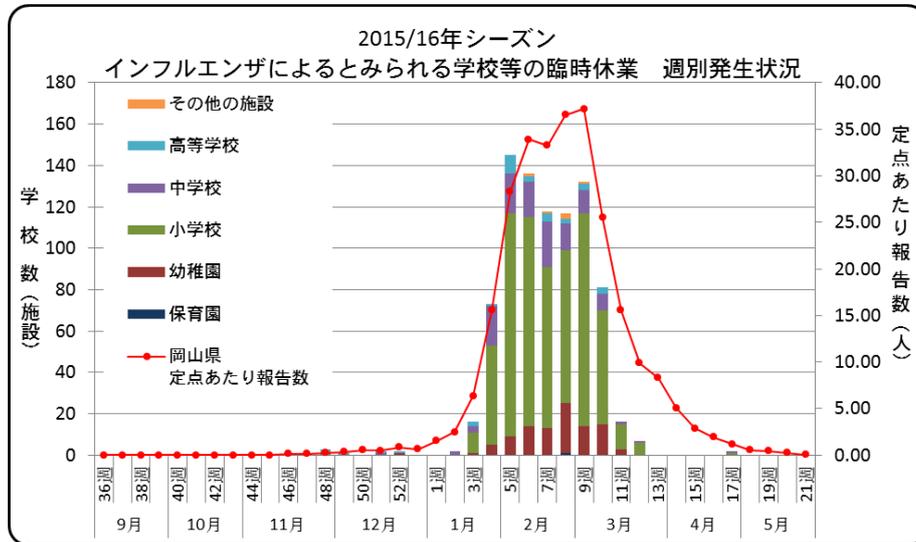
全国で今シーズン検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型3,422株（51%）、次いでB型2,646株〔山形系統1,375株、ビクトリア系統1,149株、系統不明122株〕（40%）、AH3型550株（8%）の順でした。昨シーズンは、AH3型が流行の大部分を占めましたが、今シーズンは、AH1pdm09型が主流で、複数のインフルエンザウイルスが同時期に流行しました。特にB型は、流行初期から検出されています。（2016年5月27日現在）

[インフルエンザウイルス分離検出状況](#) [国立感染症研究所](#)



#### 4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

今シーズン（2015/8/31～2016/9/4）のうち、2016年5月29日までのインフルエンザによるとみられる臨時休業は853施設で、昨シーズン（818施設）よりわずかに増加しました。施設別では、保育園1施設、幼稚園99施設、小学校597施設、中学校118施設、高等学校32施設、その他6施設でした。初発は2015年11月24日で、昨シーズン（10月21日）より遅い報告となり、今シーズンのピークには1週間に145施設の報告がありました。



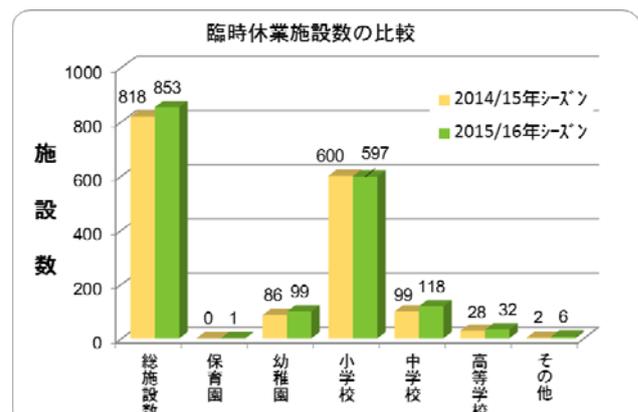
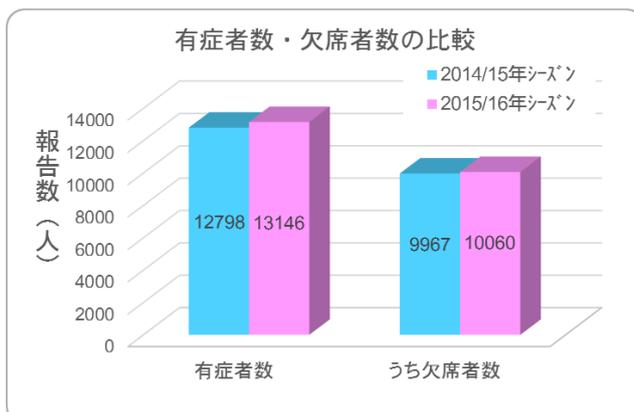
#### 1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数	うち欠席者数	施設数合計	休園・休校数	学年閉鎖	学級閉鎖	初発年月日
<b>岡山県全体</b>	<b>13146</b>	<b>10060</b>	<b>853</b>	<b>20</b>	<b>197</b>	<b>636</b>	<b>H 27. 11. 24</b>
岡山市	5048	3741	292	2	41	249	H27.11.24
倉敷市	3670	2823	225	6	18	201	H27.12.15
備前地域	1152	945	90	1	40	49	H27.11.24
備中地域	1784	1425	132	0	36	96	H27.11.24
備北地域	316	222	32	3	25	4	H28.2.3
真庭地域	315	284	23	2	19	2	H28.2.1
美作地域	861	620	59	6	18	35	H28.1.25

\* 地域名は、保健所管轄地域を表しています

#### 2) 臨時休業施設数の内訳 累計：853施設

	保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	その他
<b>施設数</b>	<b>1</b>	<b>99</b>	<b>597</b>	<b>118</b>	<b>32</b>	<b>6</b>



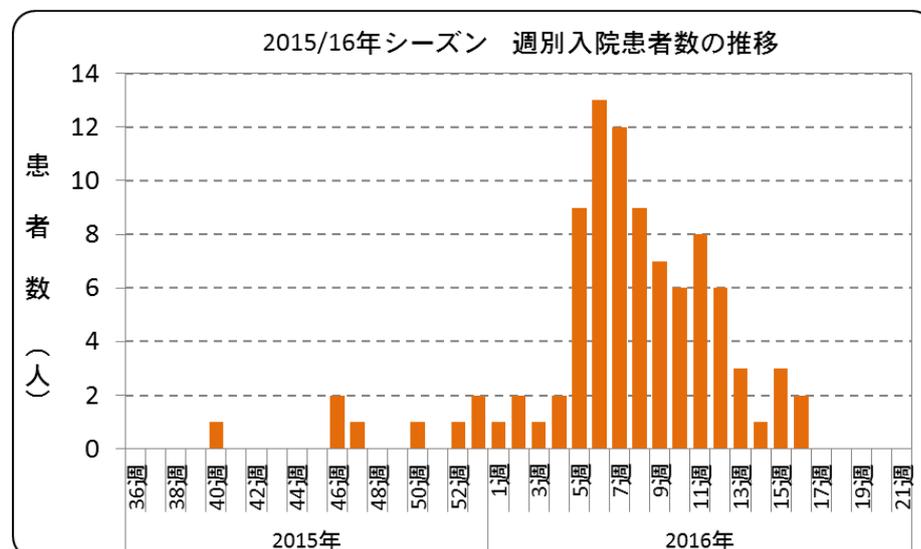
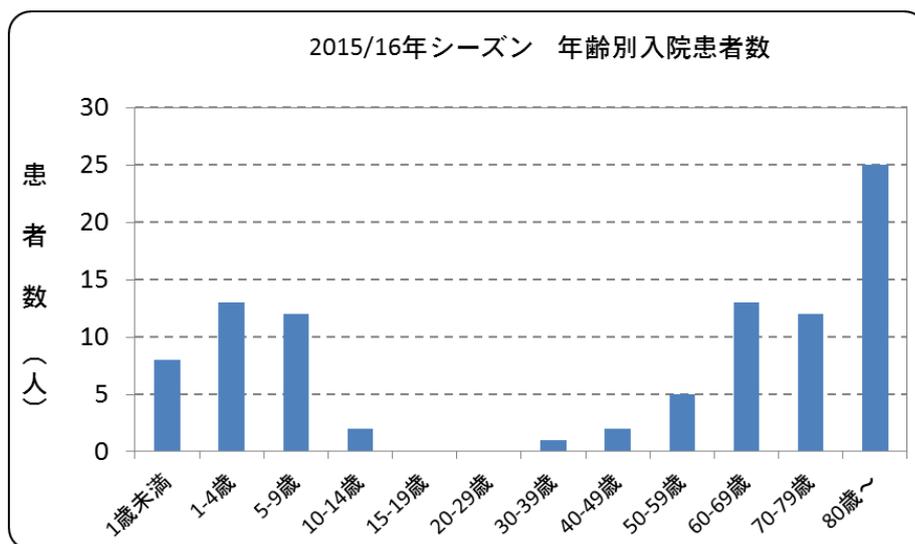
## 5. インフルエンザによる入院患者報告数( 県内基幹定点 5 医療機関による報告 )

今シーズン (2015/8/31~2016/9/4) のうち、2016 年 5 月 29 日までのインフルエンザによる入院患者数は、93 名であり、昨シーズン (99 名) より減少しました。年齢別では、9 歳以下 (35%) と 60 歳以上 (54%) が多くを占めました。週別では、第 6 週に入院患者数が最も多くなりました。

【2015 / 2016 年シーズン (2015 年 8 月 31 日~2016 年 5 月 29 日) までの入院した患者の累計数】

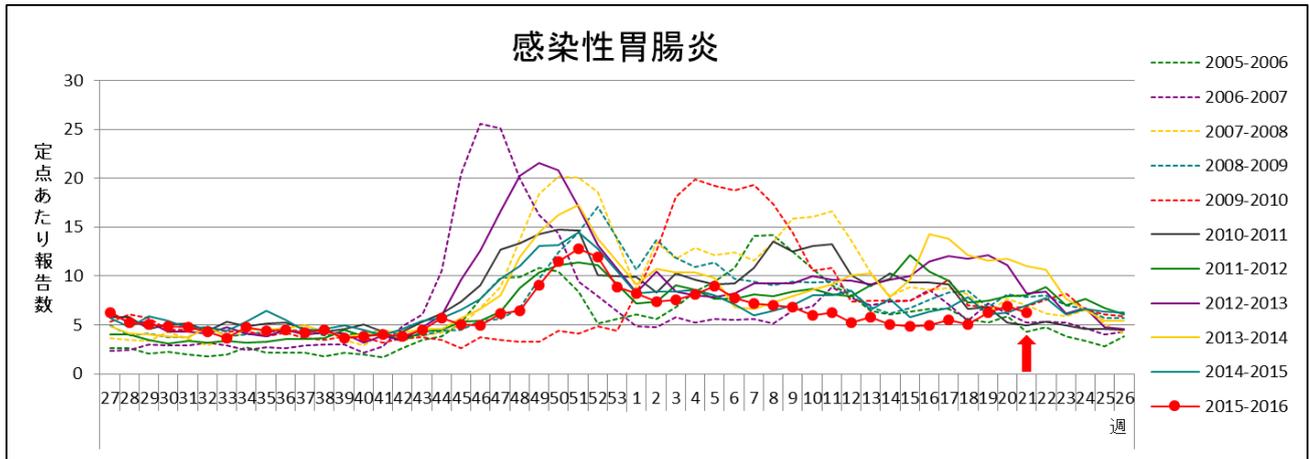
年 齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数	8	13	12	2			1	2	5	13	12	25	93
ICU 入室			1						1	1	1		4
人工呼吸器の利用			1						1	1	1		4
頭部 CT 検査(予定含)		5							1	3	1	6	16
頭部 MRI 検査(予定含)		2		1						1		1	5
脳波検査 (予定含)		1	1										2
いずれにも該当せず	8	7	11	1			1	2	2	9	9	19	69

\* 重複あり



# 感染性胃腸炎週報 2016年 第21週 (5月23日 ~ 5月29日)

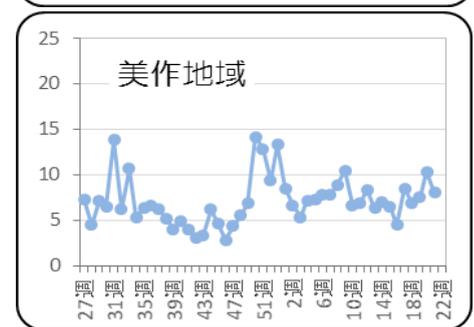
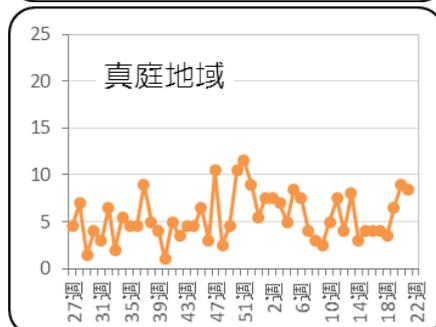
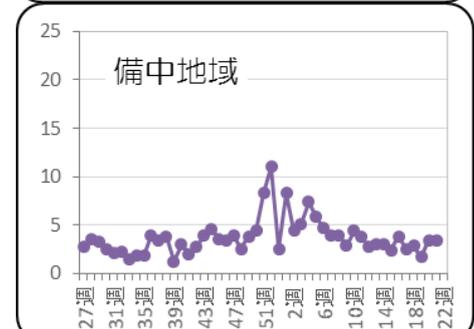
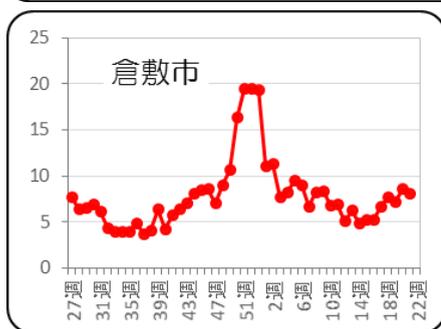
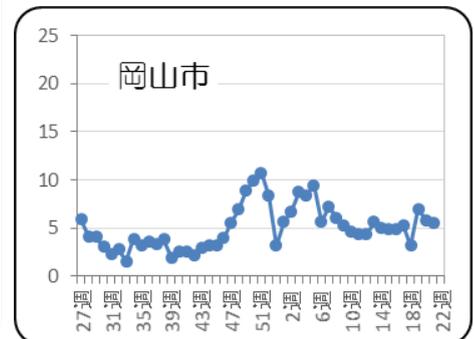
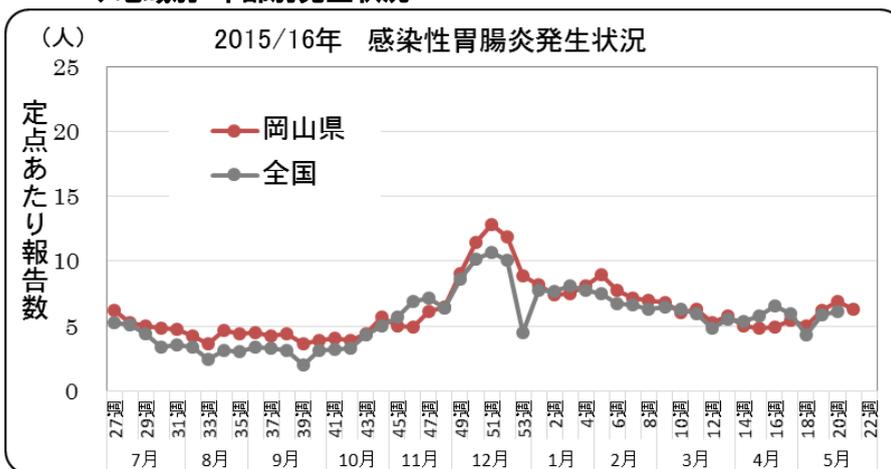
○感染性胃腸炎は、県全体で339名(定点あたり6.94 → 6.28人)の報告がありました。(54定点医療機関報告)

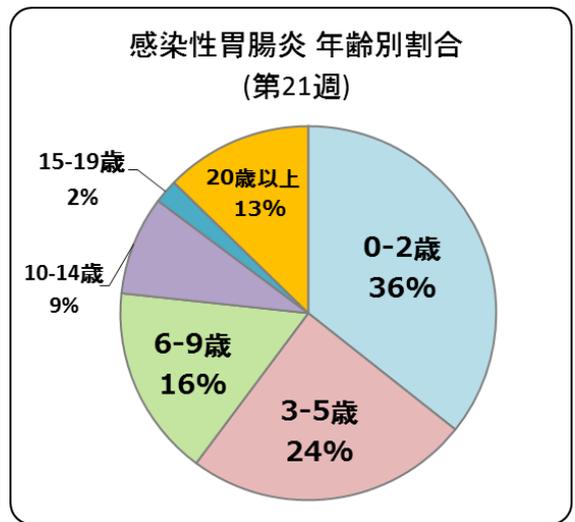
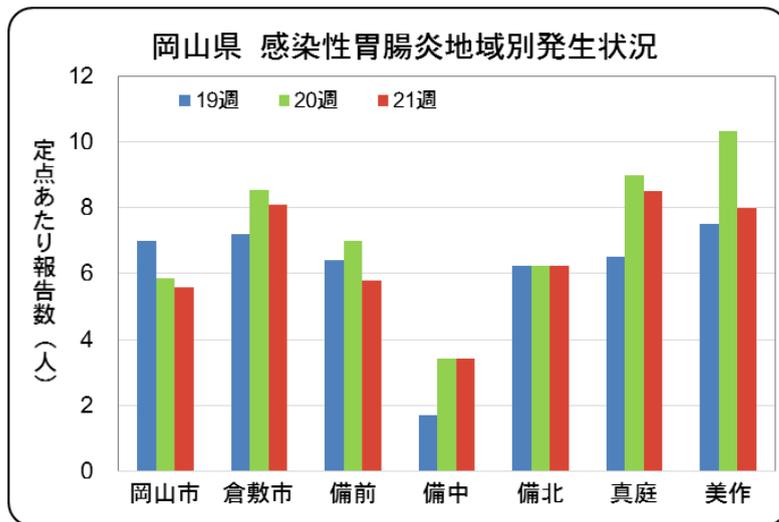


※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で339名(定点あたり6.94 → 6.28人)の報告があり、前週よりわずかに減少しました。例年、梅雨から夏にかけての高温多湿になる時期は、食中毒菌による感染性胃腸炎も増加します。特にトイレの後や調理・食事の前には、石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防に努めてください。

## ◆地域別・年齢別発生状況





地域別では、真庭地域（8.50人）、倉敷市（8.09人）、美作地域（8.00人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。第21周年齢別割合では、0-2歳 36%、3-5歳 24%、6-9歳 16%の順で高くなっています。

## ◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

- 「清潔」（菌をつけない）
  - ・調理前、食事前、用便後には、手をよく洗いましょう。
  - ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄消毒を行いましょう。
- 「迅速・冷却」（菌を増やさない）
  - ・生鮮食品、調理したものは、できるだけ早く食べましょう。
  - ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
- 「加熱」（菌をやっつける）
  - ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
  - ・特に、食肉等は中心部まで十分に火を通しましょう。  
（食肉の生食は避けましょう。）

（岡山県生活衛生課 HP より）

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省）](#)

保健所別報告患者数 2016年 21週(定点把握)

( 2016/05/23～2016/05/29 )

2016年6月2日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	6	0.07	-	-	1	0.06	-	-	-	-	5	0.83	-	-	-	-
RSウイルス感染症	3	0.06	-	-	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	34	0.63	17	1.21	-	-	-	-	9	1.29	3	0.75	-	-	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	63	1.17	16	1.14	12	1.09	4	0.40	15	2.14	-	-	-	-	16	2.67
感染性胃腸炎	339	6.28	78	5.57	89	8.09	58	5.80	24	3.43	25	6.25	17	8.50	48	8.00
水痘	11	0.20	6	0.43	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
手足口病	8	0.15	1	0.07	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	4	0.67
伝染性紅斑	22	0.41	7	0.50	9	0.82	4	0.40	-	-	-	-	-	-	2	0.33
突発性発疹	19	0.35	8	0.57	5	0.45	2	0.20	1	0.14	1	0.25	-	-	2	0.33
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	23	0.43	4	0.29	6	0.55	1	0.10	7	1.00	1	0.25	-	-	4	0.67
流行性耳下腺炎	61	1.13	25	1.79	20	1.82	8	0.80	1	0.14	6	1.50	1	0.50	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	-	-	1	0.25	1	1.00	3	3.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 or 0.00 ) ( 空白 : 定点なし )

保健所別報告患者数 2016年 21週(発生レベル設定疾患)

( 2016/05/23~2016/05/29 )

2016年6月2日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	6	0.07	-	-	1	0.06	-	-	-	-	5	0.83	-	-	-	-
咽頭結膜熱	34	0.63	17	1.21	-	-	-	-	9	1.29	3	0.75	-	-	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	63	1.17	16	1.14	12	1.09	4	0.40	15	2.14	-	-	-	-	16	2.67
感染性胃腸炎	339	6.28	78	5.57	89	8.09	58	5.80	24	3.43	25	6.25	17	8.50	48	8.00
水痘	11	0.20	6	0.43	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
手足口病	8	0.15	1	0.07	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	4	0.67
伝染性紅斑	22	0.41	7	0.50	9	0.82	4	0.40	-	-	-	-	-	-	2	0.33
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	23	0.43	4	0.29	6	0.55	1	0.10	7	1.00	1	0.25	-	-	4	0.67
流行性耳下腺炎	61	1.13	25	1.79	20	1.82	8	0.80	1	0.14	6	1.50	1	0.50	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	-	-	1	0.25	1	1.00	3	3.00	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2016年 第21週 2016/05/23～2016/05/29 )

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	1	-	-	-	-	-	-	-

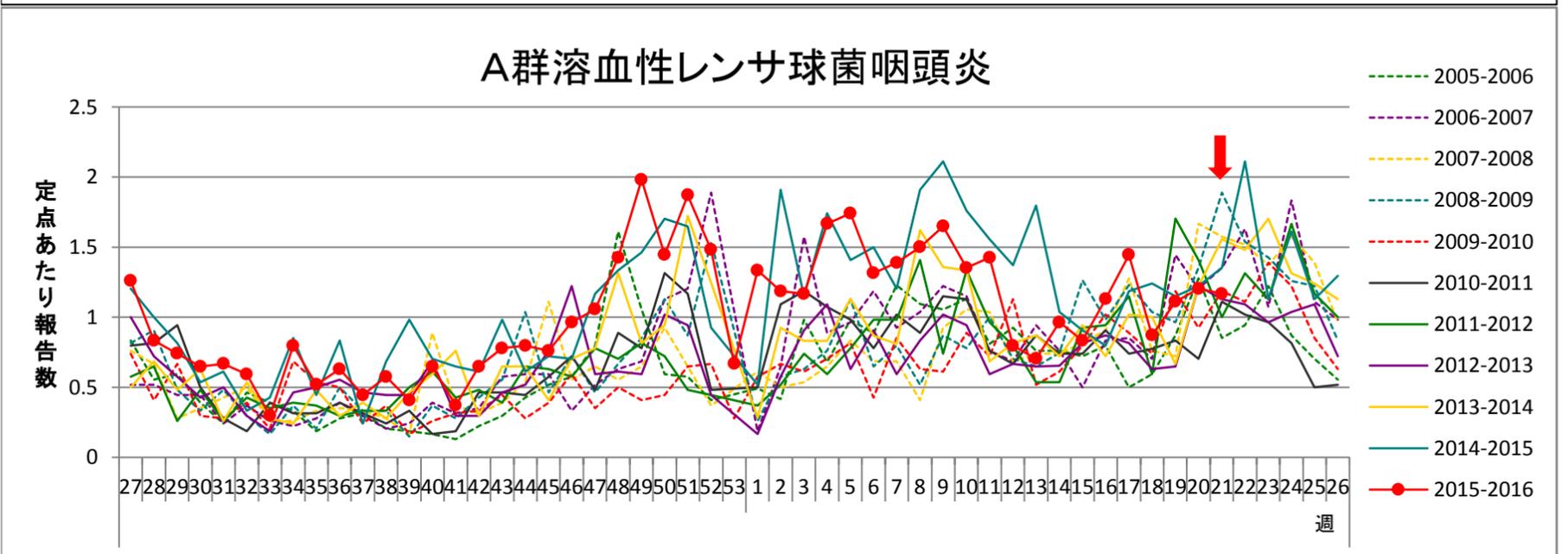
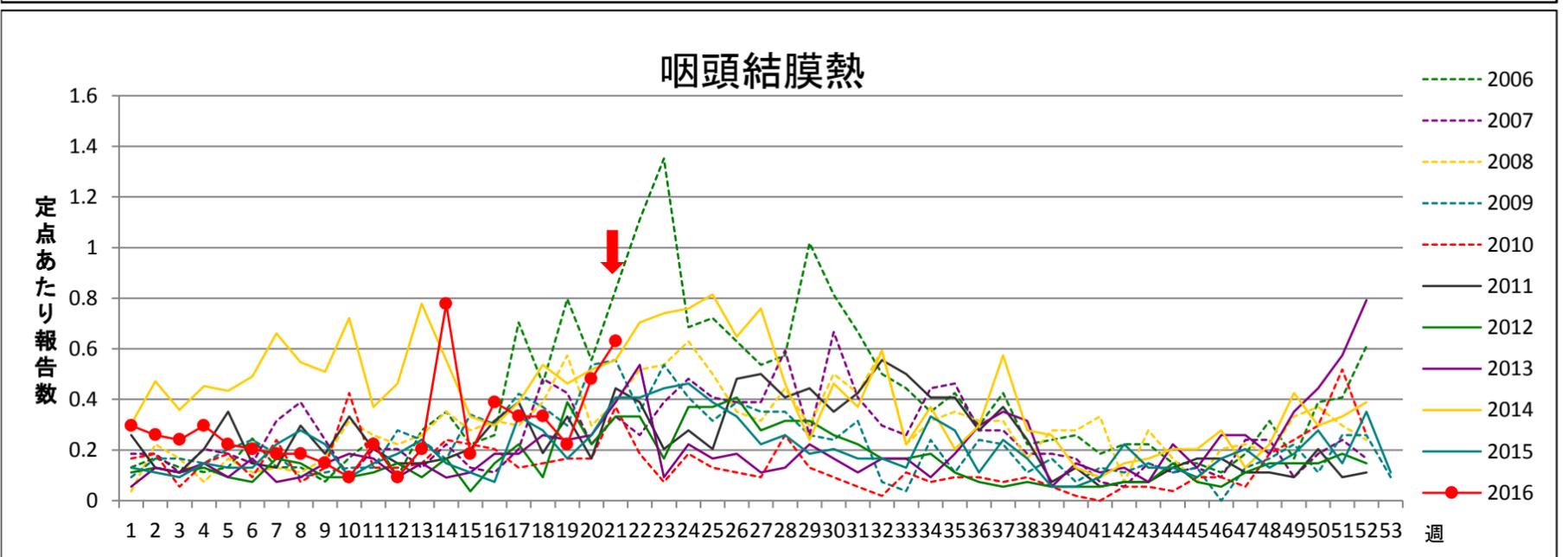
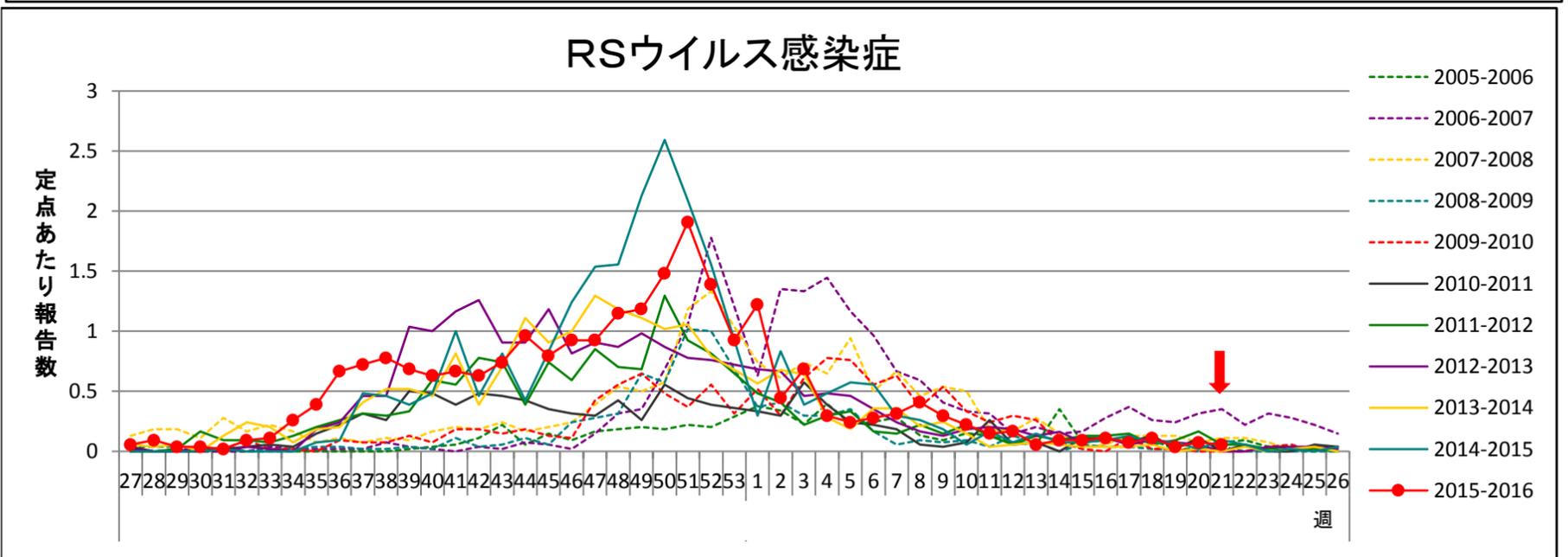
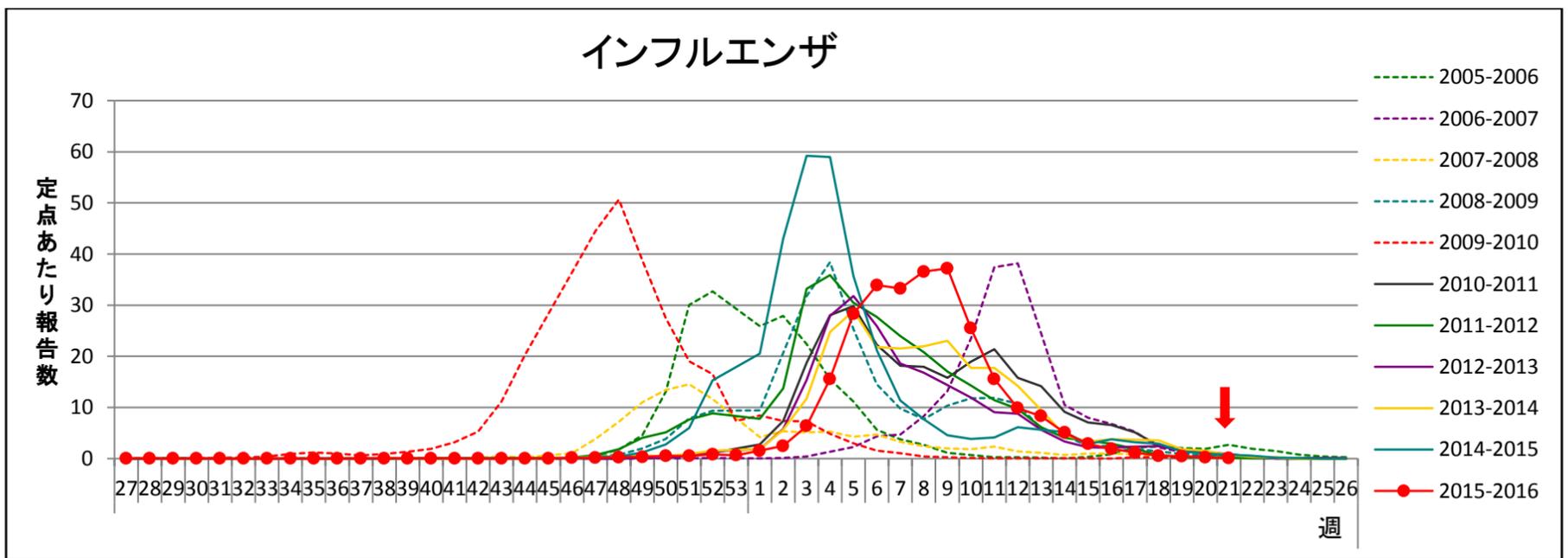
疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	3	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	34	-	7	8	9	3	3	3	-	-	-	-	-	1	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	63	-	-	3	5	7	8	13	8	2	4	5	6	2	
感染性胃腸炎	339	2	36	52	31	32	22	29	13	21	13	9	29	7	43
水痘	11	-	-	2	1	1	1	2	1	-	2	1	-	-	
手足口病	8	-	2	1	2	2	-	-	1	-	-	-	-	-	
伝染性紅斑	22	-	-	1	1	1	5	7	3	1	1	1	1	-	
突発性発疹	19	2	7	9	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
百日咳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
ヘルパンギーナ	23	1	1	10	4	-	-	3	1	3	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎	61	-	-	2	3	5	8	10	6	6	5	6	8	-	2

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	1	1	-

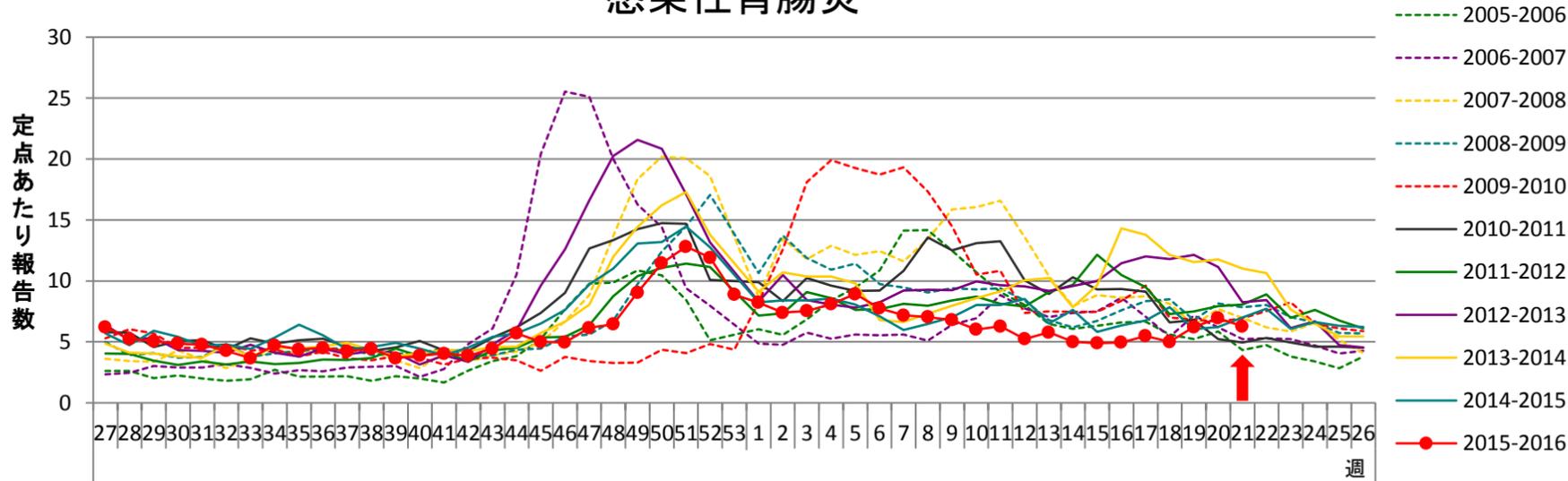
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 )

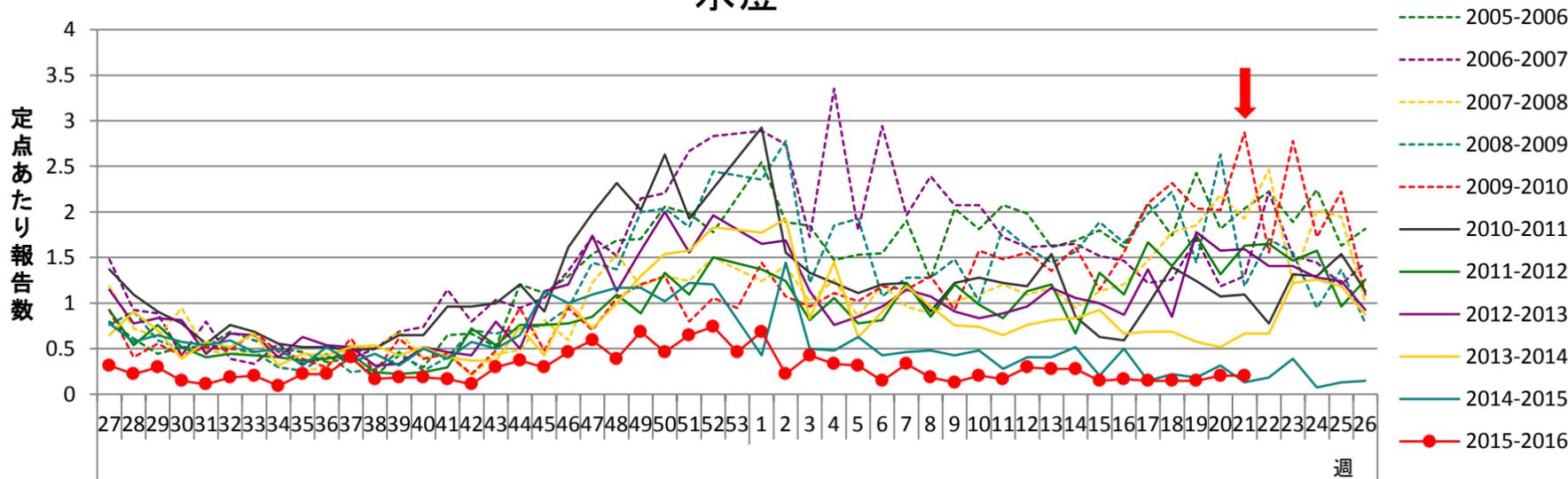




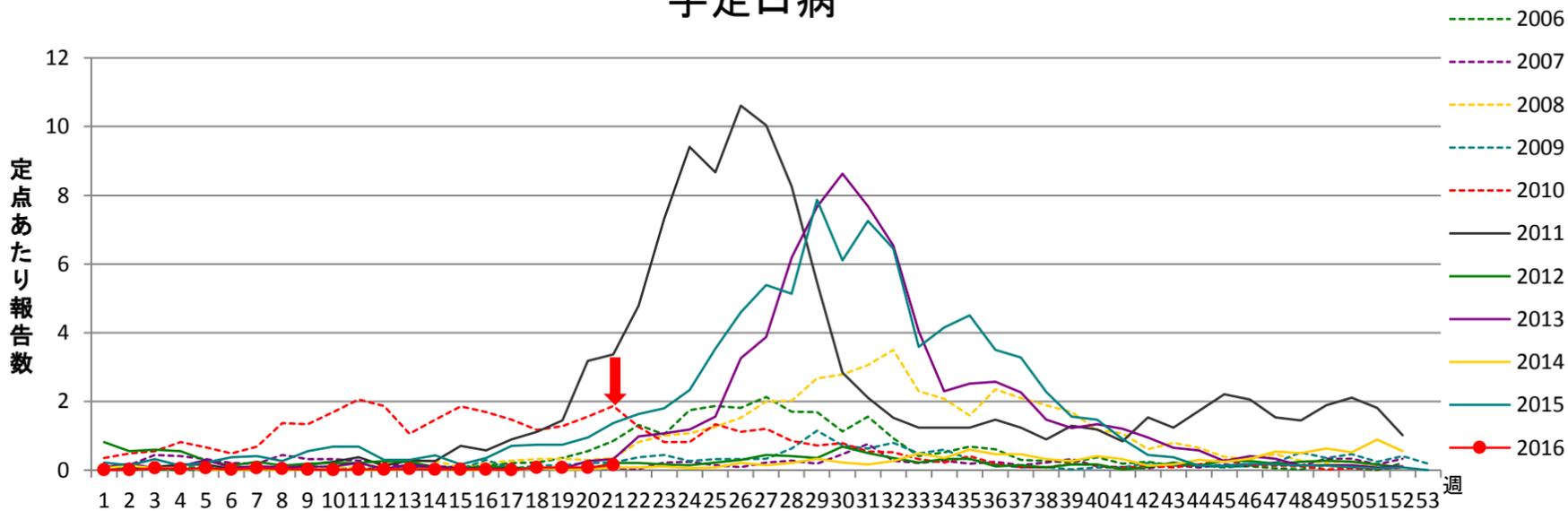
### 感染性胃腸炎



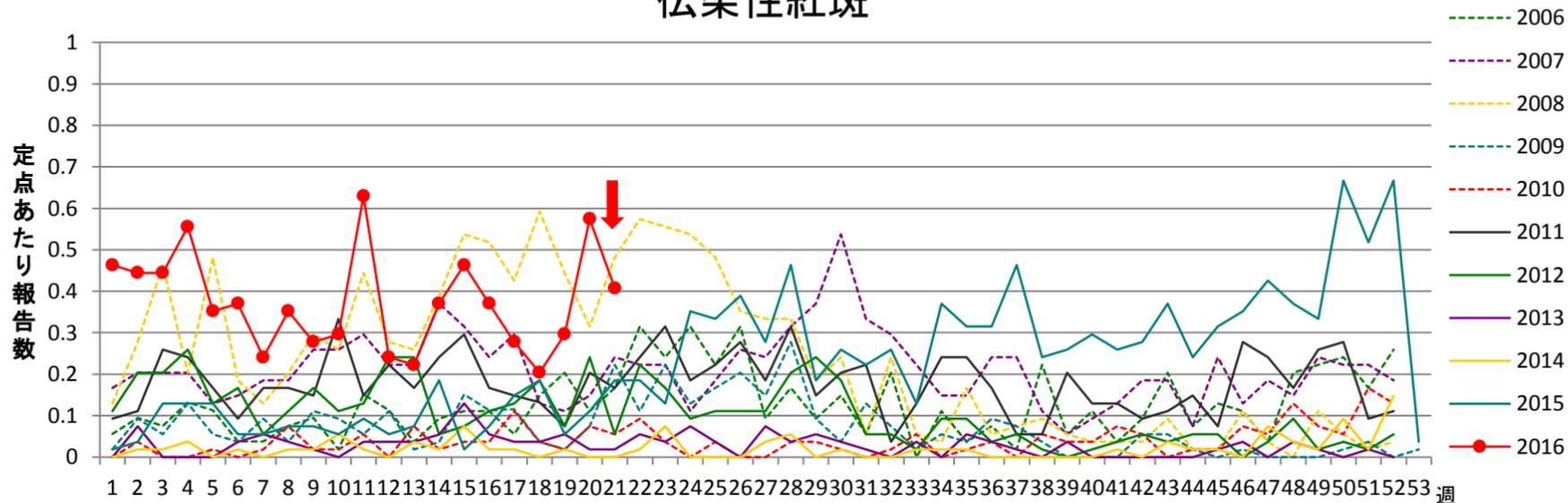
### 水痘



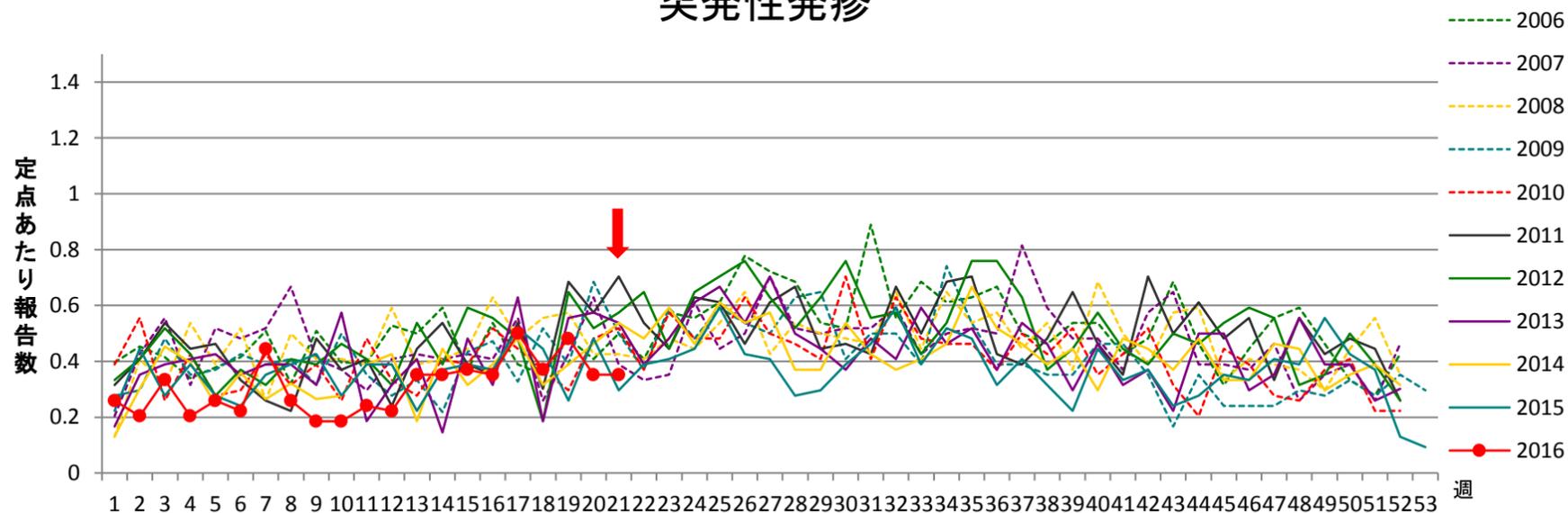
### 手足口病



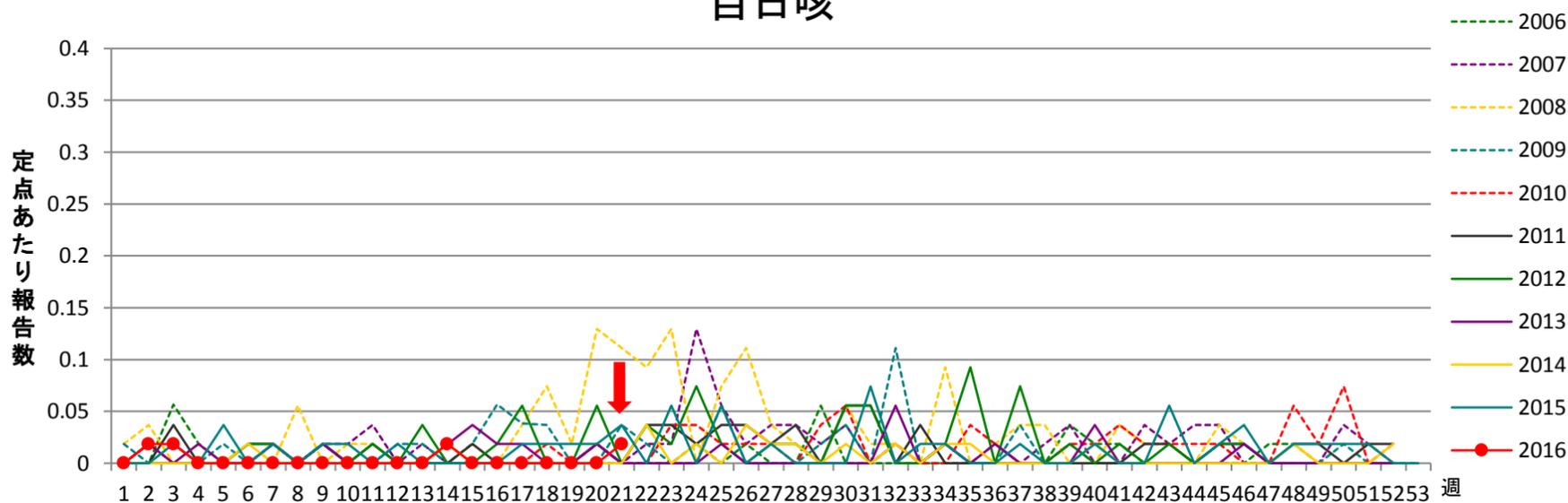
### 伝染性紅斑



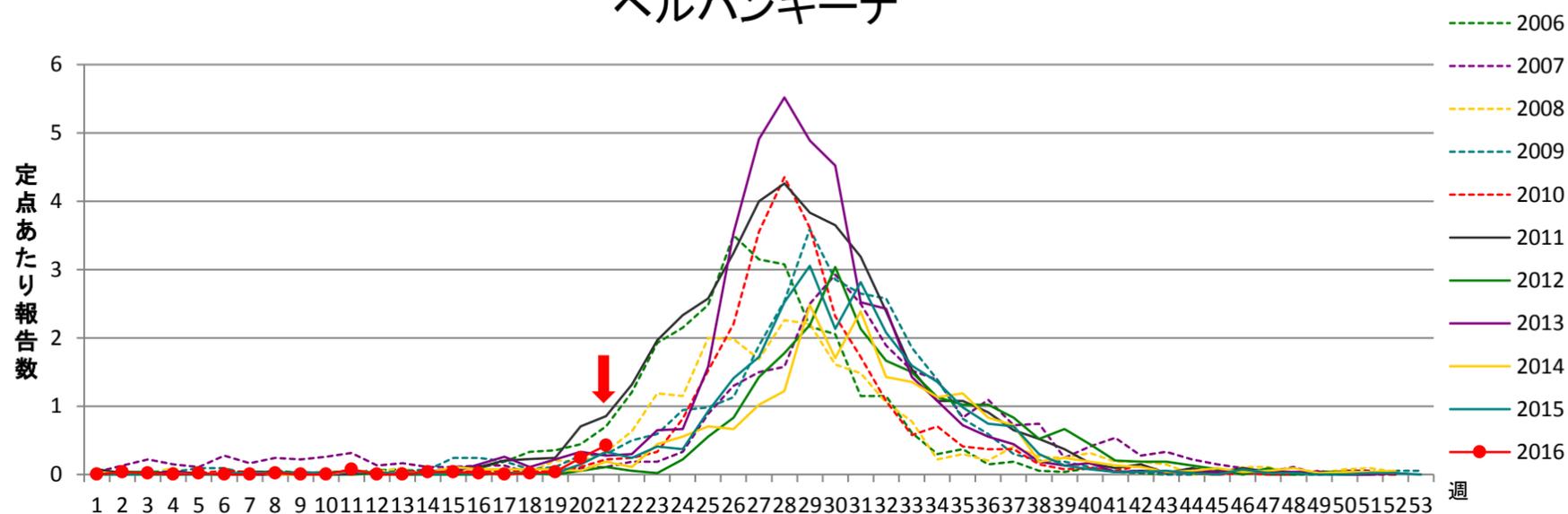
### 突発性発疹



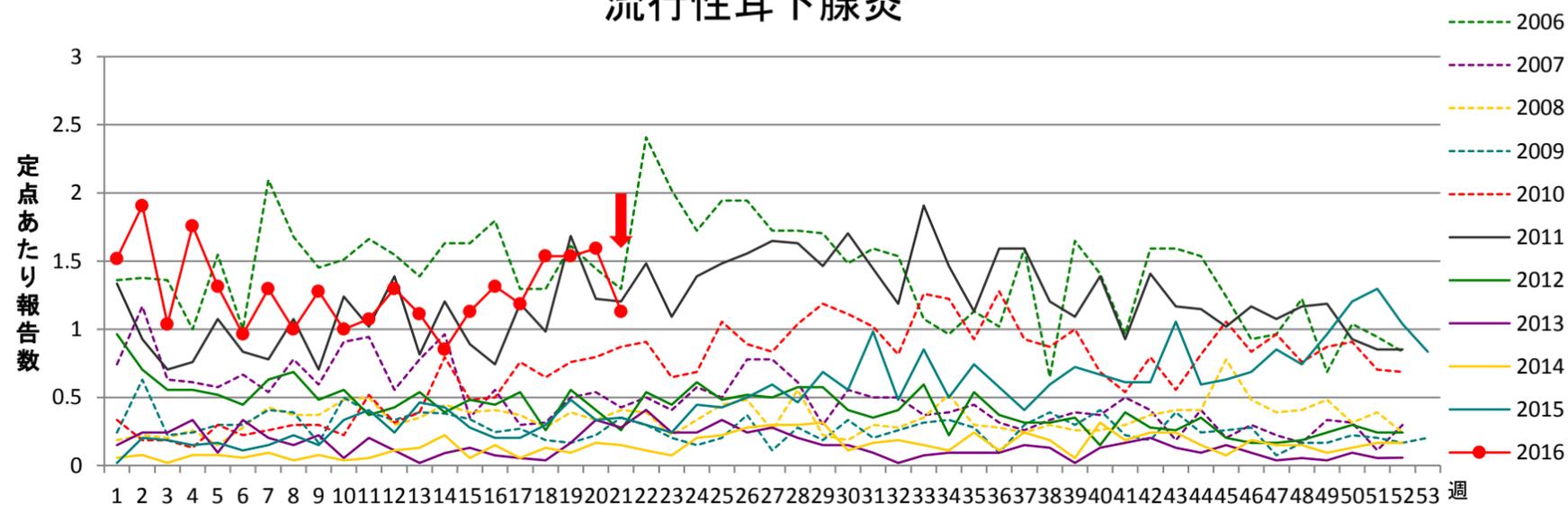
### 百日咳



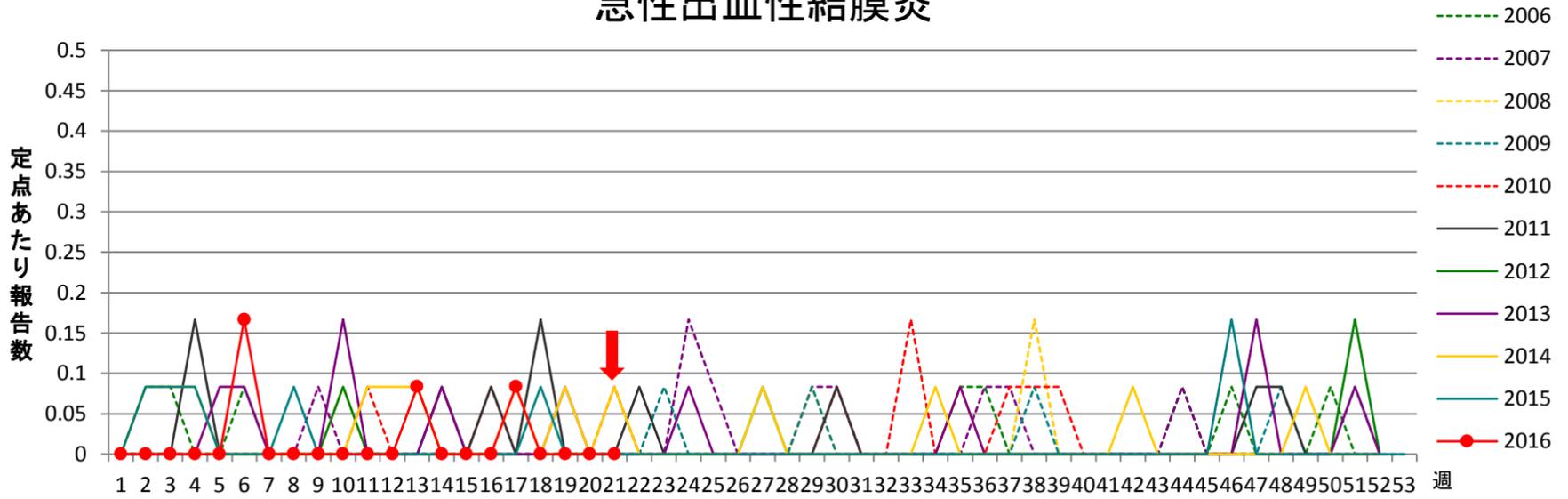
### ヘルパンギーナ



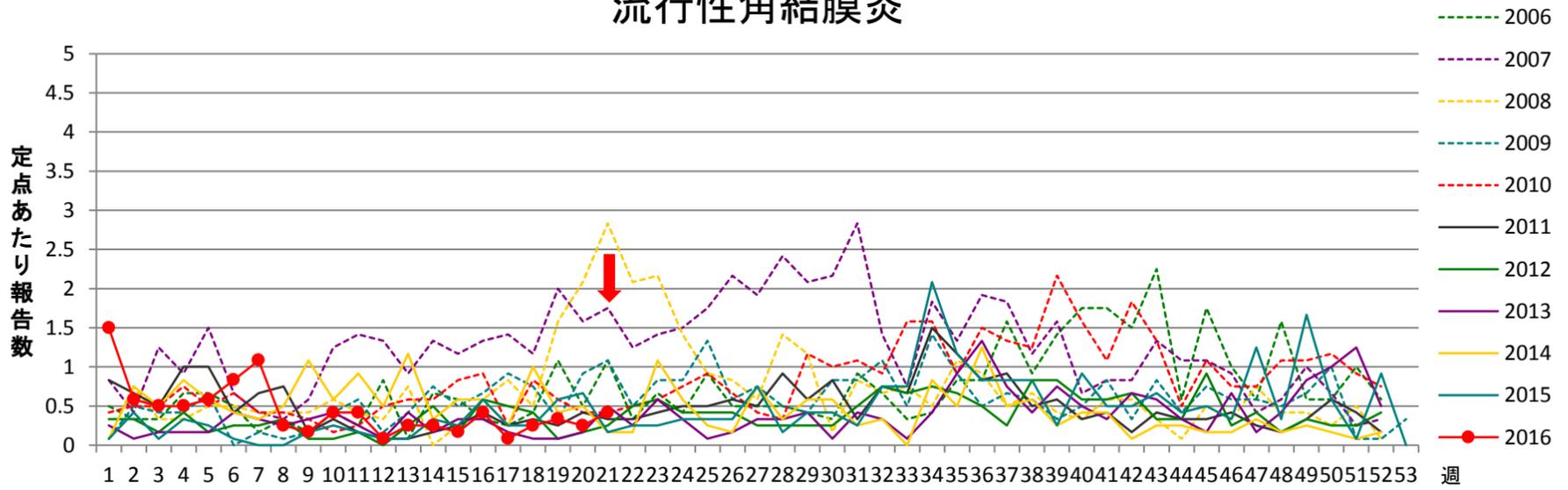
### 流行性耳下腺炎



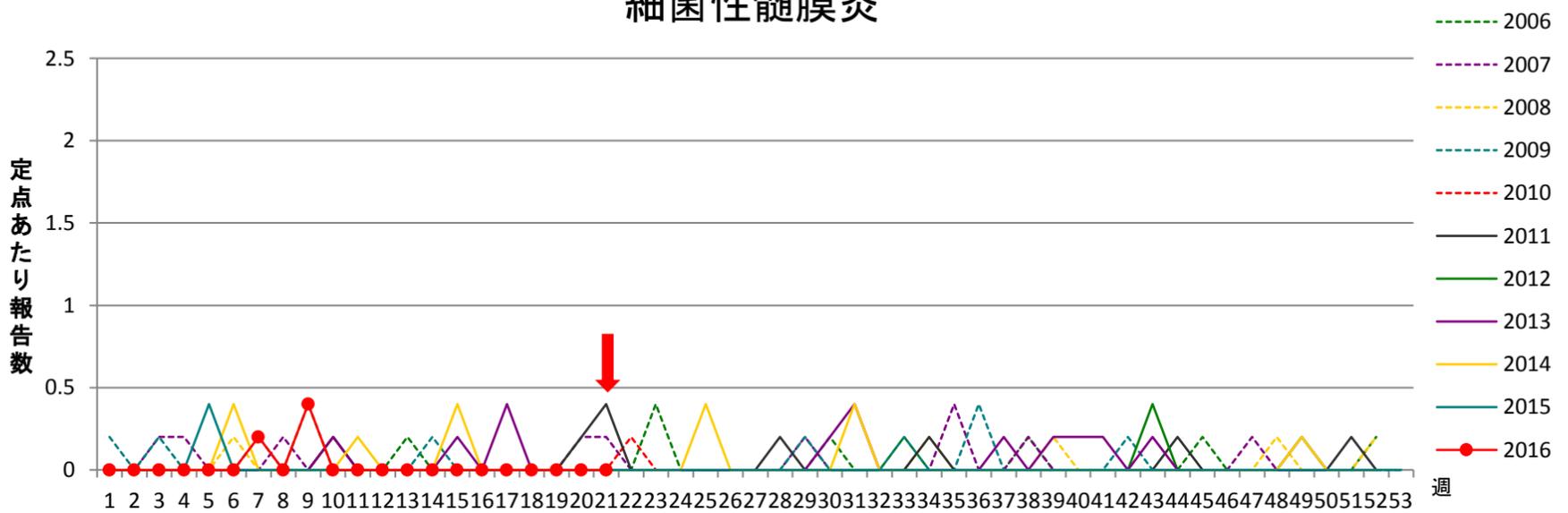
### 急性出血性結膜炎



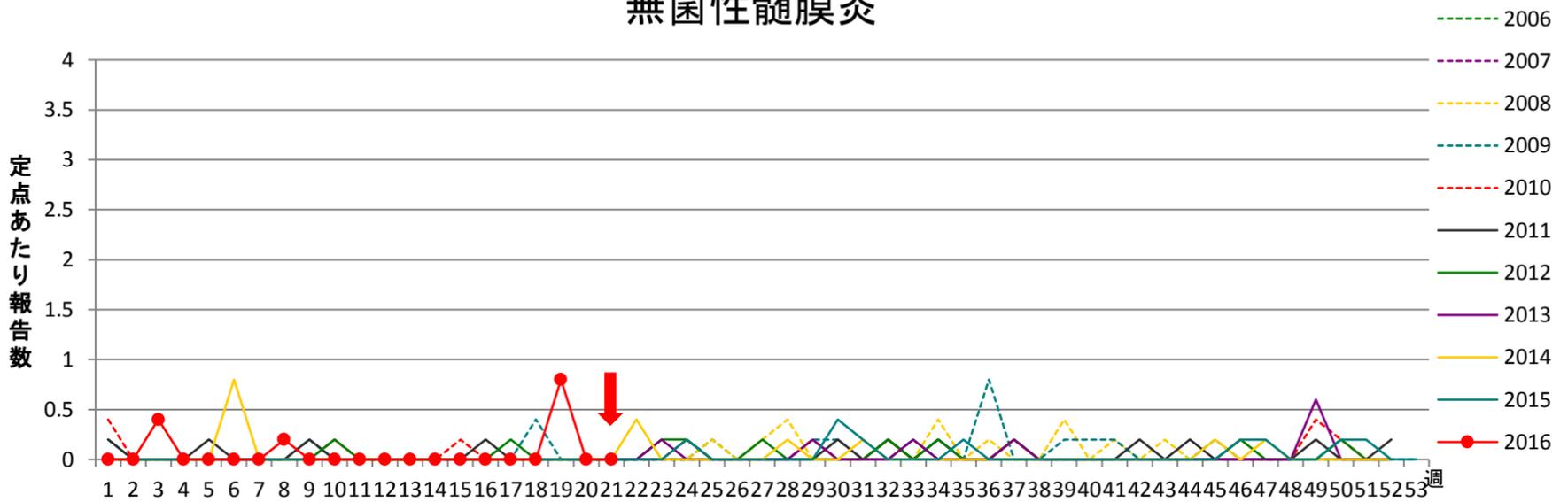
### 流行性角結膜炎



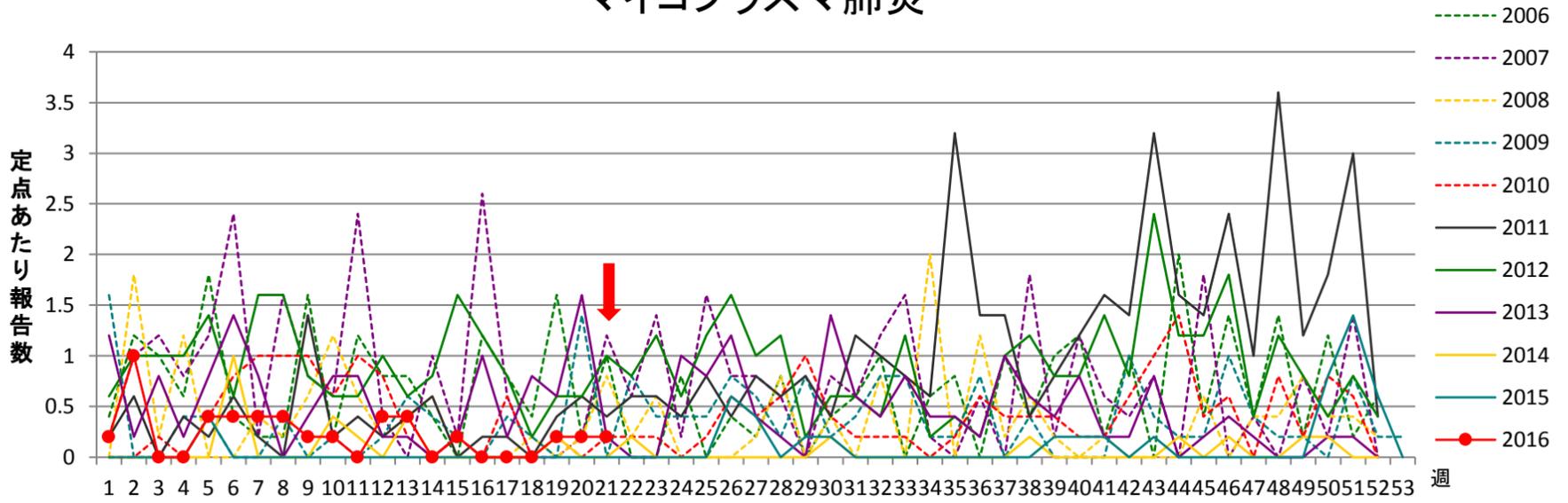
### 細菌性髄膜炎



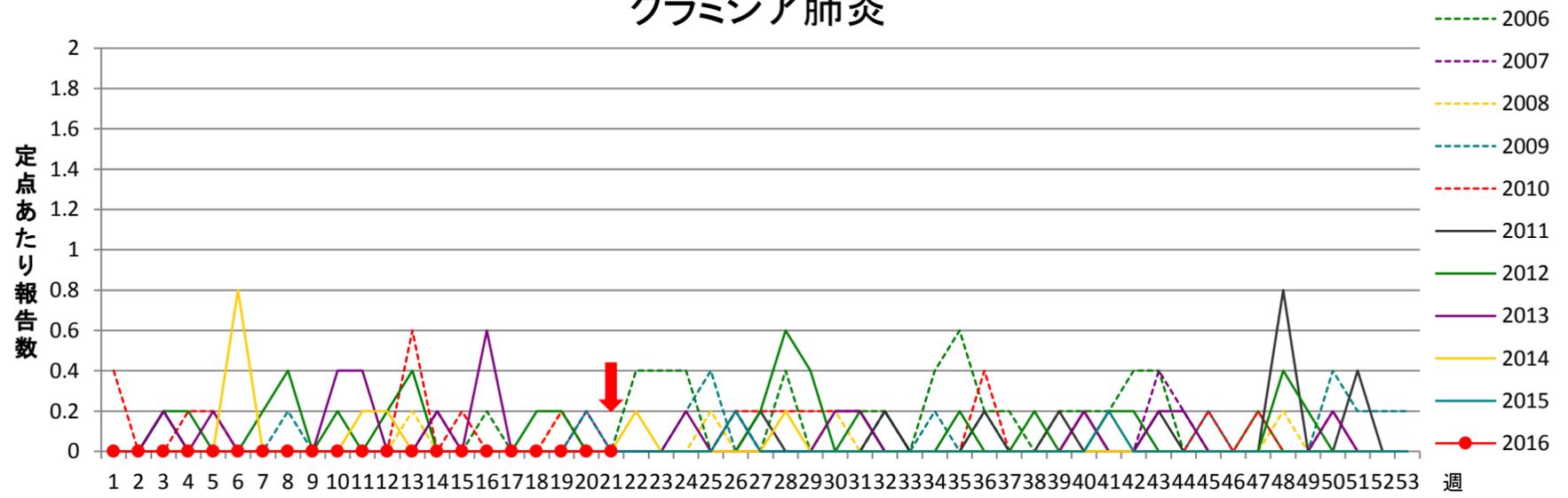
### 無菌性髄膜炎



### マイコプラズマ肺炎



### クラミジア肺炎



### 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

